

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 学 講 期	曜 日	講 時
イ ン ド 学 特 論 I	2	教授	吉 水 清 孝	1 学期	火	2
◆ 講義題目	ヒンドゥー教文献講読 (1)					
◆ 到達目標	ヒンドゥー教徒にとって馴染みのある神話・伝説をサンスクリット原典で読み、サンスクリット語解読の訓練を積むと共に、ヒンドゥー教徒の宗教的感性と奔放な想像力を理解する。					
◆ 授業内容・目的・方法	『マハーバーラタ』は、王家の争いに端を発する大戦争を描き、そのなかに社会倫理と宗教の全体にわたる教説を盛り込んだ世界最大の大叙事詩である。今学期は、昨年度に引き続き、第10巻「夜襲の巻」序盤を講読する。ここでは、父を殺された復讐を夜襲により果たそうとするアシュヴァッターマンと、運命と人為との関係を説いてそれを止めさせようとする伯父クリパとが、人の生き方をめぐる問答を展開している。毎回出席者全員にテキスト本文を輪読してもらい、和訳を検討し文法事項を確認する。					
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%] ・ () レポート [%] ・ (○) 出席 [30%] (○) その他 (授業での貢献度) [70%]					
◇ 教科書・参考書	原典と英訳は、コピーで配布する。辞書としては、まず M. Monier Williams, Sanskrit English Dictionary をもちい、更に必要に応じて他の辞書・参考書を参照する。(Böhtlingk u. Roth, Sanskrit Wörterbuch ; Mayrhofer, Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen 等)					
その他：出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 学 講 期	曜 日	講 時
イ ン ド 学 特 論 II	2	教授	吉 水 清 孝	2 学期	火	2
◆ 講義題目	ヒンドゥー教文献講読 (2)					
◆ 到達目標	ヒンドゥー教徒にとって馴染みのある神話・伝説をサンスクリット原典で読み、サンスクリット語解読の訓練を積むと共に、ヒンドゥー教徒の宗教的感性と奔放な想像力を理解する。					
◆ 授業内容・目的・方法	前学期に引き続き、『マハーバーラタ』第10巻「夜襲の巻」中盤を講読する。ここでは、パンドヴァ軍陣地に忍び込もうとするアシュヴァッターマンの前に、怪物化した異形のシヴァ神が立ちはだかる。初期シヴァ教を理解する上での重要文献を講読することになる。毎回出席者全員にテキスト本文を輪読してもらい、和訳を検討し文法事項を確認する。					
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%] ・ () レポート [%] ・ (○) 出席 [30%] (○) その他 (授業での貢献度) [70%]					
◇ 教科書・参考書	原典と英訳は、コピーで配布する。辞書としては、まず M. Monier Williams, Sanskrit English Dictionary をもちい、更に必要に応じて他の辞書・参考書を参照する。					
その他：出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
イ ン ド 仏 教 史 特 論 I	2	教授 桜井宗信	1学期	水	2
<p>◆ 講義題目 チベット密教文献研究 (1)</p> <p>◆ 到達目標 インド・チベット密教の基礎知識を理解するとともに、チベット語仏典読解力を向上させる。</p> <p>◆ 授業内容・目的・方法 チベット仏教界を代表する宗派の一つ Sa skya 派の第3代管長を務めた bSod nams rtse mo の代表作『タントラ概論』(rGyud sde spyihi rnam gshag) の講読を通じてインドからチベットへと伝えられた密教に関する基本的な知識や理論を学ぶとともに、「蔵外文献」を読みこなす上で必要となる古典チベット語読解能力の向上を図る。</p> <p>◇ 成績評価の方法 () 筆記試験 [%] ・ () リポート [%] ・ (○) 出席 [70%] (○) その他 (授業中に示される理解度) [30%]</p> <p>◇ 教科書・参考書 rGyud sde spyihi rnam par gshag pa, 『Sa skya 派全書』 Vol. 2 (東洋文庫刊), pp. 1-37</p> <p>その他: 「古典チベット語文法の既習者であること」を履修要件とする。</p>					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 学 講 期	曜 日	講 時
イ ン ド 仏 教 史 特 論 II	2	教授 桜井宗信	2学期	水	2
<p>◆ 講義題目 チベット密教文献研究 (2)</p> <p>◆ 到達目標 インド・チベット密教の基礎知識を理解するとともに、チベット語仏典読解力を向上させる。</p> <p>◆ 授業内容・目的・方法 前セメスターに引き続き bSod nams rtse mo の『タントラ概論』(rGyud sde spyihi rnam gshag) の講読を行い、インド・チベット密教学に関する知識の深化と古典チベット語読解能力の更なる向上を目指す。</p> <p>◇ 成績評価の方法 () 筆記試験 [%] ・ () リポート [%] ・ (○) 出席 [70%] (○) その他 (授業中に示される理解度) [30%]</p> <p>◇ 教科書・参考書 rGyud sde spyihi rnam par gshag pa, 『Sa skya 派全書』 Vol. 2 (東洋文庫刊), pp. 1-37</p> <p>その他: 「古典チベット語文法の既習者であること」を履修要件とする。</p>					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 学 講 期	曜 日	講 時
イ ン ド 仏 教 史 特 論 Ⅲ	2	非常勤 講師	船 山 徹	集 中 (2)		
◆ 講義題目	漢文資料から見た6・7世紀インド仏教事情					
◆ 到達目標	インド仏教は6-7世紀に重要な転機と発展を迎えたが、インド語資料から知られる事柄は限られている。インド仏教史に関して、同時代あるいは直後の時代の漢語資料からいかなる情報を得られるかを具体的に理解する。					
◆ 授業内容・目的・方法	<p>この授業では最初に用いる資諸料の紹介をして、その基本的性格を簡単に押さえた後に、以下の課題を扱う。</p> <p>インドの地域区分 各地域の特徴 仏教の諸論師に関する伝説や逸話 寺院に関する記録 部派に関する記録 仏教以外の婆羅門教に関する記録</p> <p>以上に関して、仏教史書（僧伝の類）、経典目録、注釈書に見られる重要な説と問題点、異なる解釈の可能性を原文に即して検討する。また漢語資料の特徴と資料的限界についても考慮し、漢語資料を用いた場合に、何がどこまで言えるか、どのような問題があるかを探る。</p>					
◇ 成績評価の方法	<input type="checkbox"/> 筆記試験 [%] ・ <input type="checkbox"/> リポート [100%] ・ <input type="checkbox"/> 出席 [%] <input type="checkbox"/> その他（授業中に示される理解度） [%]					
◇ 教科書・参考書	教科書は使用せず、教員が作成したプリントおよび原文コピーを配布。					
その他：	出席者はインド仏教史に対する興味のほか、漢語資料（漢文）を読むための基本的文法知識（訓読の基礎など）を有していること。訓読がある程度できればよい。現代中国語の知識はなくてもよい。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 学 講 期	曜 日	講 時
イ ン ド 学 研 究 演 習 Ⅰ	2	教授	吉 水 清 孝	1 学期	木	2
◆ 講義題目	インド哲学文献研究（1）					
◆ 到達目標	サンスクリット語で書かれた学術書の多くは基本典籍の註釈という体裁をとるので、註釈文献の文体に習熟し、あわせてインド思想の諸側面を理解する。					
◆ 授業内容・目的・方法	<p>ヒンドゥー法典を代表する『マヌ法典』には数多くの註釈が書かれた。前年度に引き続き今学期は、遊行者の生活規範を定める第6章後半へのメーダーティティ（9世紀）による浩瀚な注釈を、パールチ（7世紀ごろ）による現存最古の註釈と共に講読する。ここでは遊行者の瞑想が説かれており、全体としては在家主義を説く『マヌ法典』が出家思想をどのように取り入れているかを伺うことができる。</p>					
◇ 成績評価の方法	<input type="checkbox"/> 筆記試験 [%] ・ <input type="checkbox"/> リポート [%] ・ <input type="checkbox"/> 出席 [30%] <input type="checkbox"/> その他（授業での貢献度） [70%]					
◇ 教科書・参考書	原典と英訳は、コピーで配布する。辞書としては、まず M. Monier Williams, Sanskrit English Dictionary をもちい、更に必要に応じて他の辞書・参考書を参照する。(Böhtlingk u. Roth, Sanskrit Wörterbuch ; Mayrhofer, Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen 等)					
その他：	出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 学 講 期	曜 日	講 時
イ ン ド 学 研 究 演 習 II	2	教授	吉 水 清 孝	2 学期	木	2
◆ 講義題目	インド哲学文献研究 (2)					
◆ 到達目標	サンスクリット語で書かれた学術書の多くは基本典籍の註釈という体裁をとるので、註釈文献の文体に習熟し、あわせてインド思想の諸側面を理解する。					
◆ 授業内容・目的・方法	<p>前学期に続き、『マヌ法典』第6章後半への、メーダーティティ(9世紀)とパールチ(7世紀ごろ)による註釈を講読する。第6章最終部では、老境にあっても出家せずに家庭に留まって生涯を終える生き方が説かれており、『マヌ法典』の多くの章にみられる、出家に対する在家の優越という中心思想を確認することができる。</p>					
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%] ・ () リポート [%] ・ (○) 出席 [30%] (○) その他(授業での貢献度) [70%]					
◇ 教科書・参考書	原典と英訳は、コピーで配布する。辞書としては、まず M. Monier Williams, Sanskrit English Dictionary をもちい、更に必要に応じて他の辞書・参考書を参照する。					
その他：出席者はサンスクリット語文法の初歩知識を有すること。						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 学 講 期	曜 日	講 時
イ ン ド 仏 教 史 研 究 演 習 I	2	教授	桜 井 宗 信	1 学期	火	3
◆ 講義題目	梵蔵漢対照による『俱舎論』の講読 (1)					
◆ 到達目標	基礎的仏典の読解力を向上させるとともに、重要な術語に関する正確な知識を習得する。					
◆ 授業内容・目的・方法	<p>Vasubandhu (世親) の著した『俱舎論』は、説一切有部の教学を簡潔かつ批判的に纏めた綱要書として余りに有名であり、単に有部の思想を把握する上からのみならず、唯識派など大乘仏教の思想を理解する上でも必要欠くべからざる基本典籍である。</p> <p>この授業では前年に引き続き、同書の梵文原典をチベット語訳・漢訳とも対照させながら講読し Vasubandhu の考え方を理解するとともに、“梵蔵漢3書を比較対照し考察を進める”というインド仏教文献を扱う際の基本的方法を学ぶことを目的とする。</p>					
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%] ・ () リポート [%] ・ (○) 出席 [70%] (○) その他(授業中に示される理解度) [30%]					
◇ 教科書・参考書	<p>用いる基本資料は次の通り：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・梵文原典：ABHIDHARMAKOŚABHĀṢYA OF VASUBANDHU Chapter 1, Y. Ejima, 山喜房仏書林。 ・チベット語訳：デルゲ版及び北京版を使用。 ・漢訳：『阿毘達磨俱舎論』(玄奘訳)；『阿毘達磨俱舎論』(真谛訳)。 <p>※『俱舎論』を読解する際に役立つこの他の文献資料については、『梵語仏典の研究Ⅲ』及び『仏教研究入門』が参考になる。</p>					
その他：「サンスクリット語及びチベット語の初級文法の既習者であること」を履修要件とする。						

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員		開 学 講 期	曜 日	講 時
イ ン ド 仏 教 史 研 究 演 習 Ⅱ	2	教授	桜 井 宗 信	2 学 期	火	3
◆ 講義題目	梵蔵漢対照による『俱舎論』の講読(2)					
◆ 到達目標	基礎的仏典の読解力を向上させるとともに、重要な術語に関する正確な知識を習得する。					
◆ 授業内容・目的・方法	<p>Vasubandhu(世親)の著した『俱舎論』は、説一切有部の教学を簡潔かつ批判的に纏めた綱要書として余りに有名であり、単に有部の思想を把握する上からのみならず、唯識派など大乘仏教の思想を理解する上でも必要欠くべからざる基本典籍である。</p> <p>この授業では前年に引き続き、同書の梵文原典をチベット語訳・漢訳とも対照させながら講読し Vasubandhu の考え方を理解するとともに、“梵蔵漢3書を比較対照し考察を進める”というインド仏教文献を扱う際の基本的方法を学ぶことを目的とする。</p>					
◇ 成績評価の方法	() 筆記試験 [%] ・ () リポート [%] ・ (○) 出席 [70%] (○) その他(授業中に示される理解度) [30%]					
◇ 教科書・参考書	<p>用いる基本資料は次の通り：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・梵文原典：ABHIDHARMAKOŚABHĀṢYA OF VASUBANDHU Chapter 1, Y. Ejima, 山喜房仏書林。 ・チベット語訳：デルゲ版及び北京版を使用。 ・漢訳：『阿毘達磨俱舎論』(玄奘訳)；『阿毘達磨俱舎釈論』(真谛訳)。 <p>※『俱舎論』を読解する際に役立つこの他の文献資料については、『梵語仏典の研究Ⅲ』及び『仏教研究入門』が参考になる。</p>					
その他：「サンスクリット語及びチベット語の初級文法の既習者であること」を履修要件とする。						